



発行 中央大学学会「白門50会」支部
編集 広報部会 外村幸雄(法・政治) 山下史雄(法・政治)
投稿/連絡
山下史雄 E-mail: grande8131pescad@kub.biglobe.ne.jp
※投稿は電子メールで。電子メールの写真は、jpeg をお願いします。

大学便り

昨秋、中央大学の首脳陣が大幅に変わりました。10月には、学長選挙で永井和之法学部教授が角田邦重法学部教授を破り初当選し、11月には新理事会が成立し鈴木敏文さんが理事長に就任されました。年末(2005.12.19)開催された評議員会での理事長挨拶で示された『現時点における本学の将来を構想する主な事業』をはじめとした最近の出来事を報告します。

■現時点における本学の将来を構想する主な事業

1. 都心新施設の整備

本学の都心展開の目的は、多摩の教育研究機能のすべて又は一部を移転させることでなく、大学院を中心とした教育研究機能を充実させる事業である。

2. 21世紀館(仮称)建設の推進

研究者養成機能を多摩キャンパスで展開することを前提として、歴史館のみならず、本学の社会的役割、国際的コンソーシアムの発展、学部教育の文理融合を図るための情報環境整備等を視野に入れた多様な施設とすることを目指す事業である。

3. スポーツ振興支援の更なる推進

スポーツの振興は、本学の存在を世間に広くアピールすることのみならず、本学関係者が一体感をもって大学全体を盛り立てることの出来る事業である。

4. ビジネススクールの設置の具現化

社会に知を還元するためには、実務に基づく専門教育を更に充実していくこと、特に専門職大学院の充実にある。ビジネス界に対し、実務に基づく専門教育を受けた人材を多く輩出して初めて、総合的に本学の知が社会に還元される。具体的な検討機関を早急に設置し、取り組む事業である。

都心
に
新
施
設
を
整
備

亜大が初優勝

第82回箱根駅伝総合成績

1、亜大	11時間09分26秒
2、山梨学大	11時間11分06秒
3、日大	11時間11分53秒
4、順大	11時間12分07秒
5、駒大	11時間12分42秒
6、東海大	11時間12分45秒
7、法大	11時間14分17秒
8、中大	11時間15分02秒
9、日体大	11時間15分59秒
10、東洋大	11時間16分00秒
11、城西大	11時間16分10秒
12、大東大	11時間17分52秒
13、早大	11時間19分10秒
14、国学院大	11時間21分03秒
15、専大	11時間21分40秒
16、神奈川大	11時間21分59秒
17、中央学大	11時間22分22秒
18、明大	11時間27分38秒
19、国士大	11時間33分02秒

就職状況 キャリアセンター(旧就職部)から

2005年度(2006年3月卒業予定者)は、2004年10月にエントリ一締切のテレビ局アナウンサー試験を皮切りに、11月から年末にかけて、ミスマッチ就職回避のためのオープンセミナーを実施する企業が多くあった。2005年1月末からはセミナーが本格化し、学生の活動が活発になった。しかしながら、厳格化した日本経団連の倫理憲章遵守の影響を受け、面接・内定の時期は4月以降を中心に行う企業が増え、短期間に選考が集中し、学生の行動が規制されがちになった。また、企業側も短期集中して内定を出すことになり、内定重複のための辞退者が増加した。その結果、5月以降の追加求人が増えた。これにより、学生もさらに就職活動を継続する者が増え、就職活動の長期化に拍車がかかった。

団塊世代の大量定年退職や少子化による労働力の将来的不足等、いわゆる2007年問題等により、大企業を中心に大量採用があった。さらに中堅企業では、採用予定数に達しないところも多くあり、秋採用が多くなることにもつながった。

2004年度の就職先上位はメガバンク

- 1位 みずほフィナンシャルグループ(46人)
- 2位 東京三菱銀行(39人)
- 3位 ソフトバンクBB(32人)
- 4位 警視庁(31人)
- 5位 キヤノン、三井住友銀行(24人)

1. 教学部門

▶学長：永井和之法学部教授（任期：2005年11月6日～2008年11月5日）

略歴：1945年東京生。1968年本学法学部卒業。1969年本学法学部助手。1981年同教授。1999年法学部長を歴任。

▶総長：永井和之学長（任期：2005年12月5日～2008年11月5日）。学長が総長に選任されたのは1990年11月に就任した高木友之助元文学部教授以来15年ぶり。

▶学部長（任期：2005年11月1日～2007年10月31日）

法学部長：金井貴嗣教授（1974法）再任

経済学部長：松丸和夫教授（1979院経）

商学部長：酒井正三郎教授（1977院商）再任

理工学部長：田口東教授（東京大工）

文学部長：宇野茂彦教授（東京大院文）

総合政策学部長：大橋正和教授（1980院理）再任

▶国際会計研究科（アカウティングスクール）長（任期：2005年11月1日～2007年10月31日）

紺野剛教授

▶法務研究科（ロースクール）長（任期：2005年11月1日～2007年10月31日）

大村雅彦教授

▶定年退職（学部教員）

法学部 船越隆司教授（民法）、松本啓教授（英文学）、

の右上に続く

▽左下からの続き

森松健介教授（英文学）▷経済学部 今川健教授（計量経済学）、金子貞吉教授（日本経済史）

▷商学部 松本正徳教授（経営学）▷理工学部 関口勲教授（粉体プロセス工学）▷文学部 天野清教授（心理学）、奥田泰弘教授（教育行財政学）、金子茂教授（教育思想史）、島田修一教授（教育社会学）、武藤脩二教授（アフリカ文学）、山口明穂教授（国語学）

▷総合政策学部 佐久間賢教授（国際経営学）、濱田宏一特任教授（経済学）、増島俊介教授（行政学）

▷総合政策学部 佐久間賢教授（国際経営学）、濱田宏一特任教授（経済学）、増島俊介教授（行政学）

2. 法人部門（理事会、任期：2005年11月12日～2008年5月25日）

▶理事長：鈴木敏文氏（1956年経済学部卒業、セブン&アイHD会長兼CEO。日本経団連顧問）

▶常任理事：大久保信行氏（1969年理・理工学部教授）

加用久男氏（慶應大経済・NRIシェアードサービス㈱取締役社長）

辰馬信男氏（1976院商・商学部助教授）

出口純輔氏（1963法・持田製薬常勤監査役）

中津靖夫氏（1961法・弁護士）

▶理事：足立直樹氏、大森清司氏、荻原静夫氏、高木丈太郎氏、田宮甫氏、中山正暉氏、横山昭氏。他に、総長・学長、各学部長、法務研究科長、事務局長が理事会を構成する。

人事往来

（新組織図）

人文社会学科

— 国文学
— 英語文学文化
— ドイツ語文学文化
— フランス語文学文化
— 中国言語文化
— 日本史学
— 東洋史学
— 西洋史学
— 哲学
— 社会学
— 社会情報学
— 教育学
— 心理学

教育組織 =2006年度から文学部が5学科制から1学科に移行=

移行の狙い

学生が専攻の垣根を超えてより柔軟に学べる教育システムが整えやすくなる。

専攻・コースで固定していた募集人員を入試の志願動向に合わせて弾力的に見直すことができる。

専攻決定時期を入学手続時から1年次に遅らせる（但し、大学入試センター試験利用入試の4教科型の合格者に限定）。

入学試験

＝2006年度入試を地方会場で実施＝
今春の入学試験から「全国型大学の確立」の具体策として全国6都市に試験会場を設け、下記の通り実施した。

期日：2月10日～13日

会場：札幌、仙台、名古屋、大阪、広島、福岡
学部（学科）：（法律学科）、経済学部、商学部、理工学部、文学部

2005年度公認会計士試験合格者数

（中央大学経理研究所調べ）

中央大学 108名（慶大208名、早大158名、東大61名）

本学経理研究所では、『公認会計士合格者増加5カ年計画』を立ち上げ、合格者100人突破を目標に、Web短答トレーニングシステムと言われるWeb上の解答訓練の導入や、所長を先頭に専任講師とスタッフが休日返上で日夜懸命な指導を行い、今回の成果へとつなげた。



キューバ旅行記

コロニアルなスペイン式建物に囲まれた道路を年代物のアメ車が走り抜ける。強い日差しと汗にまみれて、ラテンのリズムが全身の毛穴を聴覚器官に変えてしまう。

長年憧れ続けたキューバの街は想像以上に刺激的だった。5月下旬、気温32度。日陰のカフェに腰を下ろし、ヘミングウェイお気に入りのカクテル「モヒート」で喉を潤す。チーノ、チーノ！出会う人、出会う人が話しかけてくる。チーノとは中国人のことだ。ソイ・ハポネス！こたえたら最後、キューバ語のシャワーを浴びることになる。

「老人と海」の舞台、コヒマルの港で釣り糸を垂れた。子供たちがやってきた。黒い肌、白い肌、チョコレート色の肌。小さな子供が僕のデイパックの中身を調べている。日本から持って来た釣り道具を取り出しては、可愛い質問攻めだ。ある青年はかぶりを振って「それでは釣れないよ」と、親切にも生きエサになる小蟹を調達してきてくれた。調達といっても、その辺の潮だまりにいるやつを目にも止まらぬ早業で捕まえてくるのだが。まったく、なんという身体能力だ！

豊かではないが、人間の温もりに溢れた国、キューバ。素晴らしい海と音楽とコーヒー。まだ夢の中にいるかのようだ。（法・山下史雄）

<モヒート>白ラム酒にレモン果汁を加え、砂糖とたっぷりのミントの葉を入れたキューバのカクテル。

上：ヘミングウェイの定宿、アンボスムンドス（ピンク色の建物）。右上：キャパレー・トロピカーナ。右：今も現役で走る古き良き時代のアメ車



生命の根源への目覚め

中村 治

これまで自分は自力で生きてきたとの思いを持っていて
だがそれは妄想にすぎなかった

ある厳冬の朝

私はいつもの林道を歩いていて
凍てつく寒さに身は固く凍りついていて
辺りの木々も霜に覆われていた

暫らく坂道を登っていくと今度は広場に差し掛かった
地元では「太陽の広場」と言い伝えられている

すでに日が昇りその日差しがあたり一面を照らしていた
枯れた木立も芝生もベンチさえもその全てが輝いていた

いつのまにか私の全身もその温かさに包まれていた
ゆつくりと心も和み穏やかになっていく様を感じられた

自然のなかでは全てが平等だ
人間も植物も動物も石ころでさえ皆ともに生かされている

人間の欲やおごりなど決して通用しないすこさがある

私は自然の中に身をゆだね過ごしていた時
生命の根源の真実に気がついた

人とは自力ではなく他力により生かされてきたのだと
自然が存在しないと生命は維持できないし

他人が廻りにいなくては生活することすらできない
これまで当りまえと思っていたことが

決して当りまえではない事実気がついた

今を生きてるとは

これも頂きもの
それも頂きもの

あれも頂きもの
まさに今をもらって生かされていることが真実だ

いのち日々あらたなり
生命の根源への目覚めは深く感謝の想いへと繋がっていく

平成十八年一月二十一日



最近気になること

よく NHKFM を聴くのですが、最近気になるのはバラエティー風の番組が多く、ムダなおしゃべりが営々と続くことが大変腹立たしい。クラシック番組も同様で、他はまったくひどい状態です。極力おしゃべりをなくし音楽のみを流すとか衛星 TV では名画やオペラを営々とやるべきです。今の姿は民放とまったく同じであり、コマーシャルがないとゆう特徴が生かされていない。

さて、今年は天才モーツアルトが生まれ250年にあたり、さる 1/27 には生誕の地ザルツブルグやウイーンで盛大に聖誕祭がおこなわれ、日本でも関連の CD が飛ぶように売られています。クラシック狂を自認する私も喜びにたえません。しかし、言葉の問題もあり「オペラ」はなかなか理解できない。

最近 DVD で気軽に鑑賞できるようになり、それなりに楽しめるようになってはいますが、そこには文化とゆう問題が横たわる。モーツアルトがなぜ「トルコマーチ」を作曲したのか。その 100 年前当時のオスマントルコにオーストリア（ハプスブルグ帝国）はすんでのところで征服されそうになった。コーヒーもトルコ軍の置き土産であった。その軍隊への脅威と高い文化への憧れがピアノとヴァイオリン曲を作らせたのだ。

さて、FAR EAST の日本でクラシック音楽は根づいてはいるが、「オペラ」は筋がわかってても社会、文化、歴史が複雑にからみあってくる。

本当に楽しいのか「魔笛」をみて、「3」の数字に込められたフリーメイソンの思いが彼の疾走する涙となって「レクイエム」につながっていることを理解する人はすくない。
(50 法卒・高橋寿比古)

2005年度50会活動報告

- 2005年4月10日(日): お花見会(有志) 靖国神社
2005年5月18日(水): 役員会 駿河台記念館
2005年6月11日(土): 定時総会 後楽園キャンパス
2005年10月23日(日): ホームカイングデー 多摩キャンパス
2006年1月2日(月)・3日(火): 箱根駅伝応援 小田原中継所・小涌谷
2006年2月2日(木): 役員会 駿河台記念館

■: 係から... ■
今年には本当に寒い日
が長く続きました。
皆様お元気でした。
会報、ようやく発行
にこぎつきました。
今回はやや硬い内容
が多く、写真もない
ため、レイアウトに
苦労しました。特に、
50会の催しの報告
が少なかつたのは残念
です。今後とも皆
様の投稿をよろしく
願います。

外村、山下